

令和6年度 授業改善推進プラン（5年生）

令和6年10月31日

昭島市立中神小学校

教科	観点	現状と課題	具体的な授業改善策
国語	知識・技能	習った漢字を穴埋め形式で書くことについては定着できてきている。熟語や文章の中での活用していくことに課題がある。	学び方の指導や小テストを充実させ、漢字の反復練習を行うと共に日常生活の中で意識して使う機会を増やす。
	思考・判断・表現	- 自分が伝えたいことを明確にして、文と文とのつながりを考えて文章を構成する事が苦手。 - 感想をもつことはできるが文章を読んだことについて自分の考えをまとめることに苦手意識をもつ児童が多い。 - 登場人物の心情や相互関係など、大まかに想像できるが、具体的に言葉にするのが苦手。	- 発表メモや構成メモなどの書き方を指導し、順序だてて自分の考えを書くための型を指導する。 - 日々の振り返りや行事の振り返りを書かせ、文章を書く機会を増やしている。 - サイドラインや書き抜きなど読み取るための方法や要約の型について指導する。 - 気持ちを表す言葉や、場面を表す言葉の指導を行い、自分の考えに合った言葉を選べるようにする。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	- 読書好きな児童が多くいるが、全く読まない児童との差が大きい。 - 出された課題をこなせばいいという児童が見られる。	- 朝読書や図書の時間を有効に使い、読書をする機会を増やし、本の紹介なども行い、さらに意欲を喚起する。 - 自分の意見を伝えるよさや、友達の話聞くよさを味わう機会を増やしていくようにする。
社会	知識・技能	- 大陸や海洋の位置や国名についての理解が不十分である。 - 地図上での方角の理解を完全には理解できていない。（特に東西） - 統計資料やグラフの読み取りが不十分な児童が多い。	- 授業の開始時に地図帳を見る時間を設けるとともに、方角にも意識させるようにする。 - グラフの読み取り方の手順を示すようにする。
	思考・判断・表現	- 文章から「問われていること」を正確に理解し、答える力が不足している。 - 資料を関連付けたり、比較したりして分かることをあげることはできるが、そこからどのようなことが言えるかまで考えることを苦手とする児童が多い。	- 授業の中で、何について問われているのか意識させ、答えさせる活動を繰り返し学習させる。 - 資料の読み取りの手順を示し、資料の特徴的な点を取り上げられるようにするとともに、事象から自分の考えをもてるようにしていく。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	資料や生活経験から自分の考えや予想を書こうとする児童が多い。	- 考える時間を十分に設けて机間指導をし、声を掛けるなど意欲付けを意識的に行う。 - 発言方法を工夫し、様々な考え方に触れる機会をもたせる。

算数	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組もうとする態度	・小数のわり算では、小数の移動や余りの求め方など基本的な筆算の仕方が理解できていない児童が多い。 ・複合図形の体積のもとめ方など知識・理解が弱い。 ・四捨五入し、千の位までの概数にすることができない。 ・文章問題の読解に課題があり、読み取ることが苦手な児童が多い。 ・表を読み取りながら思考することが苦手である。 ・どんな問題にも意欲的に取り組む児童がいる反面、算数への苦手意識があり、問題へ取り組む姿勢が消極的な児童もいる。個人差が激しい。	・3分チャレンジを活用するなど、定期的に復習する機会を設ける。 ・色分けの工夫などをし、図形を多面的に見る力を養う。複合図形の解法のパターンについて復習し、基本的な問題に取り組む。問題解決型の学習を多く取り入れていく。 ・文章問題に多く触れさせる。また、意味を理解できていないことも考えられるため、文章中のどの情報が必要になるかアンダーラインを引いて、読み取る力をつけさせる。「もと」となる数に注目させ、数直線をかけるようにし立式に生かす。 ・スモールステップを積み重ね、「できた」という達成感を味わわせる。 ・自力解決に向けて、全体で見通しをもつ活動を設定し、意欲を喚起するとともに、情報を整理し、その情報を元に筋道立てて考え、自分の考えを説明する活動を充実させる。
----	---	--	--

理科	知識・技能	・顕微鏡等の実験器具の正しい使い方についての理解が不十分な児童がいる。 ・実験に用いる器具や学習用語についての定着が不十分である。	・正しい実験器具の使い方を教え、実際に使う機会を増やす。 ・ワークシートや実験時の際に器具に関する確認や発問をしていく。
	思考・判断・表現	・実験や観察に対して意欲は高いが、その結果と考察とを結び付けることが苦手な児童が多い。 ・条件を制御して実験・検証方法を考えることが苦手な児童が多い。	・理科のノートの書き方や記録の仕方、まとめ方の指導を行い、特に、実験から考察を書かせる指導を積み重ねさせたい。 ・比較・実験の目的が分かるようにした上で問題に対する実験・検証方法を探る時間を設けることで、問題解決を図るための思考を働かせるようにする。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	・実験や観察に対しての意欲が高い。また、生物の観察では、メダカの様子を休み時間にも観察する等意欲的な姿が見られた。一方で、次の学習のめあてをもつことや自ら学習計画を立てることに課題のある児童がいる。	・日頃から日常生活と科学との結びつきについて指導を継続し、振り返りでは、自分たちの疑問や考えが広がるよう指導を積み重ねていく。
音楽	知識・技能	・拍の流れにのって、正確にリズム打ちをすることができる児童が多いが、五線譜上になると理解できない児童が数名いる。	・常時活動でのリズムづくりだけでなく、五線譜上に音も含めた簡単な旋律づくりを取り入れていく。
	思考・判断・表現	・音楽づくりの活動において、思いや意図をもち、全体のまとまりを意識しながら音楽をつくるのが苦手な児童が多い。	・自分のイメージやテーマ、工夫した点書けるようなワークシートの工夫と試しながらつくることができるよう十分な時間の確保や聴き合う活動を取り入れていく。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	・楽器の使い方や演奏順を守り、すすんで音楽活動に取り組める児童が多いが、自信を持てず、おそるおそる演奏する児童がいる。歌声が小さい。	・音楽室だけでなく、体育館などの広い場所でみんなで声を合わせて歌う機会をつくったり、リコーダーの発表の機会を設けて友達によさを認めてもらう機会をつくる。

図画工作	知識・技能	・意欲的に取り組むが、失敗を恐れながら制作する面もある。	・事前に練習を十分にさせる。段階的に達成感を味わうことが出来るようにする。 ・良いアイデアを積極的に褒め、自分の表現を説明できるようにするとともに自信を付けるようにする。 ・導入を工夫し、児童の驚きや感動を誘いだすようにする。授業規律を見直し落ち着いて学習できる環境を整える。
	思考・判断・表現	・教師へ「これでいいのか」とよく確認することがあり、表現に正解を求めている。 ・平面作品、立体作品のどちらにも意欲的に取り組み、造形的な関心が高い。一方で教師の話を最後まで聞けず、作業や片付けのメリハリがないことが課題である。	
	主体的に学習に取り組もうとする態度		
家庭	知識・技能	・生活経験や知識・技能に個人差が見られる。	・苦手な児童は教師の近くにしたり、得意な児童の隣にしたりと座席を工夫し、教え合える環境を作る。
	思考・判断・表現	・自分の生活やこれまでの経験から考えたり、よりよい方法を実践したりする力が弱い。	・自分の生活とどのような関係があるかを問いたり、考えさせたりする活動を導入で行うとともに、授業後には振り返りを行う機会を設ける。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	・実技を伴う内容については興味関心が高い一方で、自身の生活に置き換えて考え、学習と結び付けて実践に移すことが難しい児童が多い。	・意欲を維持できるよう、指導計画を立てる。 ・保護者に協力を呼びかけ、家庭の支援も充実させる。
体育	知識・技能	・集団としての意識や安全面での配慮が不十分な児童がいる。 ・運動の内容によって技能に偏りが見られる。	・何のために体育を行うかの意識を高め、集団の良さや、運動の楽しさを味わわせる。 ・場の設定を工夫すると共に、運動量を十分確保する。
	思考・判断・表現	・どうやって自分の技の完成度を高めるか、意識するところはどこなのかを考えずに、活動する姿が見られる。	・自己の課題の解決の方法や友達の良いところを伝える時間を確保し、運動の中でも学び合える環境を作る。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	・意欲的に取り組む児童が多いが、活動の領域によって、意欲の差が大きい。	・学習カードなどを活用し、自分の課題と向き合うことを意識させ、各自のめあて毎に達成感を味わわせられるよう声掛けを行う。

外国語	知識・技能	・罫線に従って正しくアルファベットの 大文字・小文字を書くことに課題がある。 ・英語の表記のみを見ても発音をすることができない児童が多い。	・アルファベットを書く際は、罫線があるノート、ワークシートを活用し、日頃から意識して取り組ませる。 ・毎時間のはじめにデジタル教科書や Picture dictionaryを活用し、反復練習で慣れさせる。
	思考・判断・表現	・選択式の表現であっても、単語の意味を理解して書き抜いて自分のことを紹介したり、表現したりすることが難しい。	・各単元の授業で、自分のことに置き換えた文章を作ったり、発音したり、書いたりする活動を行う。
	主体的に学習に取り組もうとする態度	・すすんで取り組む姿勢が見られる。相手に伝える意識、相手の言葉を聞く意識をより高めたい。	・ペア学習やグループ学習を通して、コミュニケーションを取り合う機会を増やす。